平成２６年度

病害虫情報(第１号)４月予報

平　成　２　６　年　３　月　２　７　日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫防除部　ＴＥＬ　0463－58－0333
テレフォンサービス　ＴＥＬ　0463－58－6612　※テレフォンサービスは、平成26年5月末で終了します。
インターネット　http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/

【内容】

Ⅰ　４月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 …… 1
【水稲、コムギ、カンキツ、ナシ、ウメ、チャ、促成・露地トマト、促成・露地キュウリ、イチゴ、ナス、春キャベツ】
Ⅱ　技術情報　2014年の果樹加害性カメムシ類発生予想 …… 12
Ⅲ　４月の病害虫発生予報の内容とその根拠 …… 13
Ⅳ　４月の気象予報及び気象の経過 …… 16

○ 農薬を使用する際は、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
○ **収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。**

※ 農薬に関する情報は、平成26年3月12日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

Ⅰ　４月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

【水　稲】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
ばか苗病	－	○				は種 ←→ 種子消毒	
いもち病	－	○					
イネシンガレセンチュウ	－	○					
苗立枯病	－	○				←→ 床土消毒	

今月の防除

ばか苗病 いもち病 イネシンガレセンチュウ	**【塗沫処理(30ml／乾燥籾1kg)】** (予・治) テクリードＣフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 ＋ スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 ＋ スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍 **【種子浸漬(24時間浸漬)】** (予・治) テクリードＣフロアブル [浸種前,1回] 200倍 ＋ スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 ＋ スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍　等
	★ 農薬使用のポイント ◉ スミチオン:イネシンガレセンチュウ防除を目的に必ず加える。 ◉ テクリードＣ:もみ枯細菌病と同時防除する場合は本剤を使用する。 ◉ 種子消毒で使用した薬剤の廃液は、適正に処理する。
苗立枯病	(予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6～8g/箱 ＋ (予) ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15～20g/箱　等

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←→ 防除適期
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報（H26・No. 1） …… 神奈川県農業技術センター

【 コムギ】

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
赤かび病	－	○			←	→（開花期）	❖出穂期から曇天多雨で温暖な天候が続く場合は、開花期を重点に防除する。

今月の防除

赤かび病	（予・治）トップジンM水和剤［14日,3回(出穂期以降は2回)］1,000～1,500倍 （予・治）ベルクート水和剤［21日,3回(出穂期以降は1回)］1,000～2,000倍 等

【 カンキツ 】

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
そうか病	並	○	←（発芽直後）	→			❖前年発生したほ場では、**新芽が出そろった時期**に必ず予防散布をする。
かいよう病（中晩柑類）	少	○	←（発芽直後）	→	←（春梢伸長期）	→	❖春葉の適期防除により、病原細菌の園内密度が上がらないようにすることが重要。 ❖3月中下旬に農薬散布していない場合は、4月上中旬に防除する。 ❖近年温州みかんでの被害が見られるので、発生園では防除を心掛ける。

今月の防除

そうか病	（予）イデクリーン水和剤［－,－］400～800倍 ＋ クレフノン［－,－］200倍 （予）デランフロアブル［30日,3回］1,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ デラン:かぶれに注意する。
かいよう病（中晩柑類）	（予）コサイド３０００［生育期,－］2,000倍 ＋ クレフノン［－,－］200倍 （予）ＩＣボルドー６６Ｄ［－,－］25～200倍 ＋ アビオンーＥ［－,－］500～1,000倍 （予）イデクリーン水和剤［－,－］400～800倍 ＋ クレフノン［－,－］200倍 等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

- ◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤は単剤（ストロビー、ファンタジスタ）、あるいはQoI剤とSDHI剤との混合剤（ナリア）、いずれも1年1回
  QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回

※［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期
［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報（H26・No. 1） …… 神奈川県農業技術センター

【ナ　シ】

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
生育〈生育調査:生産技術部果樹花き研究課・豊水〉	やや遅			《開花期》			
赤星病（感染時期）	遅	○	↓感染期 ←→	←→	←→		❖赤星病の詳しい感染状況は、ホームページ情報やテレフォンサービスを参考に、降雨前の散布を心がける。
黒星病	やや少	○	←	→	(花そう基部病斑) ←→	(葉・幼果) →	❖黒星病の花そう基部発病部は、見つけ次第取り除く。

（ビャクシン類冬胞子堆）

今月の防除

赤星病 黒星病	【開花前（降雨前に予防剤を散布する。）】 （予）トレノックス 又は チオノックフロアブル [30日,5回] 500倍 【落花期】 （予・治）スコア顆粒水和剤 [14日,3回] 4,000倍 （予・治）インダーフロアブル [7日,3回] 赤星病:8,000～12,000倍、黒星病:5,000～12,000倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

- ◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤の単剤（アミスター１０、ストロビー、ファンタジスタ）、SDHI剤の単剤（フルーツセイバー）あるいは混用、いずれも1年2回

【ウ　メ】

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
かいよう病	－	○		←→	～～～～ ←→	～～～～	❖強風雨時に感染するので、多発園では降雨前の散布を心掛ける。
黒星病	－	○		←→	～～～～	～～～～ ←→	
アブラムシ類	－	○		～～～～ ←→	～～～～ ←→		
カメムシ類	多	◎			←	→	❖カメムシ類に関してはⅡ技術情報を参照。

今月の防除

かいよう病	（予・治）マイコシールド [21日,4回] 1,500倍　等
黒星病	（予・治）ベルクートフロアブル [30日,3回] 2,000倍 （予・治）ストロビードライフロアブル [7日,3回] 2,000～3,000倍　等
アブラムシ類 カメムシ類	アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] アブラムシ類:2,000～3,000倍、カメムシ類:2,000倍 スカウトフロアブル [前日,3回] アブラムシ類:2,000～3,000倍、カメムシ類:2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

- ◉ QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤は単剤（アミスター１０、ストロビー）、あるいはその他殺菌剤との混用、いずれも1年2回

※［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←→ 防除適期
［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報（H26・No.1） …… 神奈川県農業技術センター

【 チャ 】

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
生育〈生育調査:北相地区事務所研究課・やぶきた〉	並		≪萌芽期≫				
カンザワハダニ	やや多	○	━━━ ←━━━	━━━ →	━━━	━～～～	❖発生に十分注意し、早めに防除する。

今月の防除

カンザワハダニ	バロックフロアブル［14日,1回］1,000～3,000倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

- ◉ QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤は単剤（アミスター２０、ストロビー、ファンタジスタ）は1年1回
  QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回

※［防除要否］◎：追加防除が必要　○：通常防除　△：必要に応じて防除　×：防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期
［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No. 1) …… 神奈川県農業技術センター

【 促成トマト 】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
灰色かび病	並	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	❖発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ❖灰色かび病対策には、葉先の枯れた部位や花がらをこまめに取り除き、発生前は適切な換気等により施設内の湿度低下に努める。
葉かび病	－	○					
タバココナジラミ	並	○	―――― ←――→	―――― ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	❖TYLCV(黄化葉巻病)を媒介。
アザミウマ類	やや多	○	――――	～～～～	～～～～ ←――	～～～～ ――→	❖TSWV(黄化えそ病)を媒介。

今月の防除

灰色かび病 葉かび病	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期,－:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 灰色かび病:2,000倍、葉かび病:2,000～4,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ベルクート:うどんこ病・すすかび病(2,000～4,000倍)にも適用あり。イミノクタジン剤。ダイマジン、ダイアメリット等と同じ成分を含む。
コナジラミ類 タバココナジラミ	サンマイトフロアブル [前日,2回] 1,000～1,500倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ サンマイト:トマトサビダニ(1,500倍)にも適用あり。 ◉ コルト、モスピラン:アブラムシ類にも適用あり。 ◉ サンクリスタル:アブラムシ類・トマトサビダニ、うどんこ病(300～600倍)にも適用あり。
アザミウマ類	ディアナSC [前日,2回] 2,500倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ディアナ:コナジラミ類、ハモグリバエ類(2,500～5,000倍)にも適用あり。

マルハナバチへの影響

- ▸ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▸ 影響のある剤:コルト(セイヨウオオマルハナバチ:3日、マルハナバチ:7日)、モスピラン(1日)、ディアナ(1日)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- ◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸ QoI剤(アミスター２０、ファンタジスタ)
  - →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
  - →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▸ SDHI剤(アフェット、カンタス)
  - →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
  - →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ―――― 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←――→ 防除適期
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No.1) …… 神奈川県農業技術センター

【 促成キュウリ 】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
べと病	並	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	❖風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。
うどんこ病	やや多	○					
灰色かび病	並	○	―――― ←――→	～～～～ ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	
菌核病	－	○					
アブラムシ類	やや多	○	―――― ←――→	―――― ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	❖CMV(モザイク病)を媒介。
タバココナジラミ	並	○					❖CCYV(退緑黄化病)を媒介。
ミナミキイロアザミウマ	多	○					❖MYSV(黄化えそ病)を媒介。

今月の防除

べと病	(予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400～800倍 等
うどんこ病	(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期,－] 500～1,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
灰色かび病 菌核病	(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期,－] 灰色かび病:500～1,000倍 (予) セイビアーフロアブル２０ [前日,3回] 1,000～1,500倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アブラムシ類 コナジラミ類 タバココナジラミ アザミウマ類 ミナミキイロアザミウマ	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000～3,000倍 アザミウマ類:2,000倍 アファーム乳剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ:2,000倍 ボタニガードＥＳ [発生初期,－] アブラムシ類:1,000倍、コナジラミ類:500倍 アザミウマ類:500～1,000倍 等
	★ 農薬使用のポイント ◉ アファーム:トマトハモグリバエにも適用あり。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
▶ QoI剤(アミスター２０、ファンタジスタ)
→単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
→SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
→単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
→QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ―――― 発生時期 ～～～～ 多発時期 …… 感染時期 ←――→ 防除適期
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No. 1) …… 神奈川県農業技術センター

【 促成イチゴ 】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
灰色かび病	やや少	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	❖発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ❖適宜、古葉を除去し、風通しを良くする。
うどんこ病	やや多	○					
アブラムシ類	やや多	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	
オンシツコナジラミ	並	△					
タバココナジラミ	やや多	○					
アザミウマ類	多	○					
ハダニ類	やや多	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←―	～～～～ ―→	～～～～ ←――→	

今月の防除

灰色かび病	(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期,－]500～1,000倍 (予) セイビアーフロアブル２０ [前日,3回]1,000～1,500倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期),2回]2,000倍 等
うどんこ病	(予) タフパール [発病前～発病初期,－] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期),2回]2,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日,－] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300～600倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ベルクート:イミノクタジン剤。ダイマジン、ファンベル等と同じ成分を含む。
アブラムシ類 コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300倍 チェス顆粒水和剤 [前日,3回] 5,000倍 等
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 カスケード乳剤 [前日,3回] ミカンキイロアザミウマ:4,000倍 等
ハダニ類	マイトコーネフロアブル [前日,2回] 1,000倍 コロマイト水和剤 [前日,2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] 300～600倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ コロマイト:シクラメンホコリダニにも適用あり。

ミツバチへの影響

- ▸ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▸ 影響のある剤:スピノエース(2日)、コロマイト(1日)

ミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響

- ▸ 影響のある剤:スピノエース(影響あり)、コロマイト(影響あり)、サンクリスタル(多少影響あり)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

▸ QoI剤(アミスター２０、ストロビー、ファンタジスタ)
→単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
→SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回

▸ SDHI剤(アフェット、カンタス)
→単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
→QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ―――― 発生時期 ～～～～ 多発時期 …… 感染時期 ←――→ 防除適期
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No. 1) …… 神奈川県農業技術センター

【 露地トマト 】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
アブラムシ類	―	○	━━	━━	━━	━━	❖CMV(モザイク病)を媒介。
コナジラミ類	―	○	←(育苗)	━━	━━→		❖TYLCV(黄化葉巻病)を媒介。
アザミウマ類	―	○			←(定植)	━━→	❖TSWV(黄化えそ病)を媒介。

☞ウイルス病感染を防ぐため、苗は 0.4mm目合防虫ネットで被覆する。

今月の防除

アブラムシ類
コナジラミ類
アザミウマ類

【育苗期:粒剤施用】

ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理]
アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株

アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布]
コナジラミ類:1～2g/株

【定植時:粒剤施用】

アドマイヤー１粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和]
アブラムシ類、コナジラミ類:1～2g/株

モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和]
アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株

【育苗期～定植後:散布】

ベストガード水溶剤 [前日,3回]
アブラムシ類、コナジラミ類:1,000～2,000倍、アザミウマ類:1,000倍

コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍

サンクリスタル乳剤 [前日,－] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍　等

★ 農薬使用のポイント

- ◉ アルバリン、スタークル:ハモグリバエ類にも適用あり。
- ◉ モスピラン:トマトハモグリバエにも適用あり。
- ◉ サンクリスタル:トマトサビダニ、うどんこ病(300～600倍)にも適用あり。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

▶ QoI剤(アミスター２０、ファンタジスタ)
→単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
→SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回

▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
→単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
→QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No. 1) …… 神奈川県農業技術センター

【 露地キュウリ 】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
アブラムシ類	－	○	━━	━━	━━	━━	❖CMV(モザイク病)を媒介。
コナジラミ類	－	○	←(育	苗)━	━→	(定 植)	❖CCYV(退緑黄化病)を媒介。
アザミウマ類	－	○			←━	━→	❖MYSV(黄化えそ病)を媒介。

☞ウイルス病感染を防ぐため、苗は 0.4mm目合防虫ネットで被覆する。

今月の防除

アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株 【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー１粒剤 アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ: [定植時,1回:植穴又は株元土壌混和] 1～2g/株 コナジラミ類: [定植時,1回:植穴土壌混和] 2g/株 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5～1g/株 【育苗期～定植後:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 等
	★ 農薬使用のポイント ◉ アルバリン、スタークル:ハモグリバエ類(2g/株)にも適用あり。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
▶ QoI剤(アミスター２０、ファンタジスタ)
→単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
→SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
→単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
→QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ━━━ 発生時期 ～～～～ 多発時期 …… 感染時期 ←━━→ 防除適期
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No. 1) …… 神奈川県農業技術センター

【ナ　ス】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
アブラムシ類	－	○	━━	━━	━━	━━	
コナジラミ類	－	○	←━━ (育苗)	━━	━━→ (定植)		
アザミウマ類	－	○			←━━	━━→	

今月の防除

アブラムシ類
コナジラミ類
アザミウマ類

【育苗期:粒剤施用】

ベストガード粒剤 [育苗期後半,1回:株元処理]
アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株

アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布]
アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1～2g/株

【定植時:粒剤施用】

アドマイヤー１粒剤 [定植時,1回:植穴又は株元土壌混和]
アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ:1～2g/株

ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和]
アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株

【育苗期～定植後:散布】

ベストガード水溶剤 [前日,3回]
アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ:1,000～2,000倍

ウララＤＦ [前日,3回]
アブラムシ類:2,000～4,000倍
コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍　等

★ 農薬使用のポイント

- アルバリン、スタークル:ハモグリバエ類(2g/株)にも適用あり。
- ダントツ:マメハモグリバエにも適用あり。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター２０、ストロビー)
  →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
  →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
  →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
  →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

※［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期
［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (H26・No. 1) …… 神奈川県農業技術センター

【 春キャベツ 】

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	防除のポイント
【横浜・藤沢地区】							
灰色かび病	並	○	～～～～	～～～～	～～～～	～～～～	❖発病株は、見つけ次第早めに除去する。
菌核病	やや少	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←――→	～～～～	～～～～	❖雨天が多い場合には予防に努め、発病株は早期に、ほ場外で処分する。
コナガ	やや少	△	――――	―――― ←――→	――――	―――― ←――→	
【三浦半島地区】							
灰色かび病	やや少	○	～～～～	～～～～	～～～～	～～～～	❖発病株は、見つけ次第早めに除去する。
菌核病	やや少	○	～～～～ ←――→	～～～～ ←――→	～～～～	～～～～	❖雨天が多い場合には予防に努め、発病株は早期に、ほ場外で処分する。
コナガ	やや少	△	――――	―――― ←――→	――――	―――― ←――→	

今月の防除

菌核病	(予) セイビアーフロアブル２０ [3日,3回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 1,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ セイビアー、カンタス:株腐病にも適用あり。
コナガ	ハチハチ乳剤 [14日,2回] 1,000～2,000倍 トルネードエースＤＦ [7日,2回] 2,000倍 フローバックＤＦ [発生初期(但し、前日),－] 1,000～2,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ハチハチ:アザミウマ類(1,000倍)にも適用あり。

※［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ―――― 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←――→ 防除適期
［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 （H26・No.1） …… 神奈川県農業技術センター

病害虫防除部　TEL　0463－58－0333
テレフォンサービス　TEL　0463－58－6612 ※テレフォンサービスは、平成26年5月末で終了します。
インターネット　http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/

Ⅱ　技術情報

2014年の果樹加害性カメムシ類発生予想

今年は前期多発型、ウメ・ナシ・キウイフルーツは要注意！！

- 主なカメムシは成虫で越冬し、春から夏にかけて果樹を加害するのは、この前年からの越冬成虫です。
- チャバネアオカメムシの越冬数の年次変化は図1のとおりで、今年は大発生した2012年ほどではありませんが、平年よりも多い越冬数です。また、ツヤアオカメムシの越冬数も平均値より多くなっています。

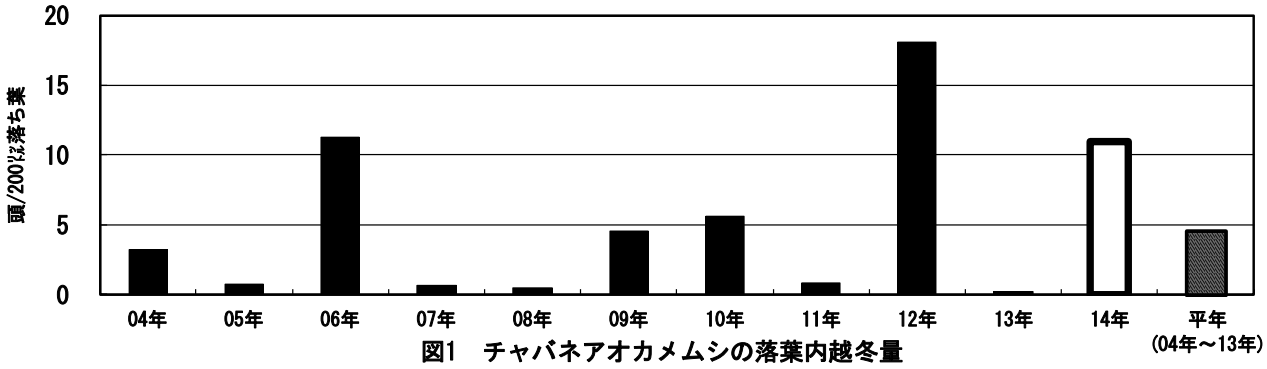


図1　チャバネアオカメムシの落葉内越冬量

◎ 越冬数が多い年は4月下旬頃からウメに、7月までにナシやキウイフルーツなどへの被害が多くなります。

◎ また、ミカンでは開花期に多数飛来すると新芽の萎凋や落蕾を招く恐れがあります。

◎ 今年前半の果樹加害性カメムシの発生は多く、被害の発生も多いと予想されます。以下の防除のポイントを参考に対策を施してください。

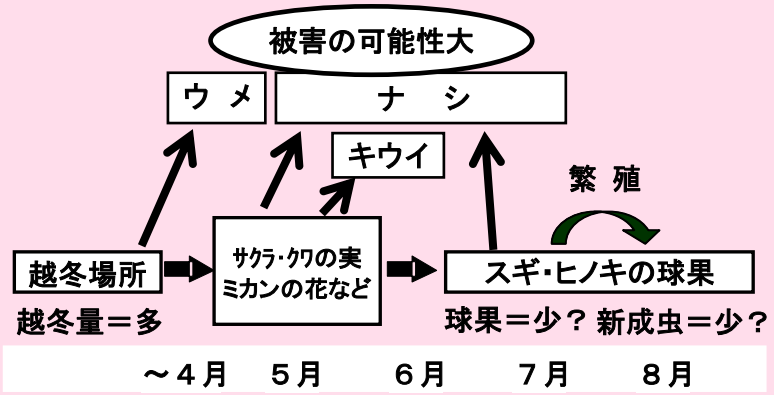


図2　2014年の果樹加害性カメムシの発生予想（8月まで）

防除のポイント

☆園内の発生や周辺の蛍光灯・白熱灯等への飛来状況に注意して、早期発見と初期防除の徹底を行いましょう。

☆越冬量が多い年は、いったん果樹園への飛来が始まると続くことが多いので、園内を観察し加害開始直後から合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤を散布します。また、越冬成虫が完全にいなくなる8月中旬まで注意しましょう。

☆カメムシは園外から飛んで来るため、農薬散布だけでは防除し難いことを念頭に、物理的な防除法（防虫ネットの設置、袋掛け、忌避灯の早期点灯など）と組み合わせた防除対策を行いましょう。

☆袋を掛ける果樹では、なるべく早く実施し、幼果での加害を極力少なくしましょう。また、一次摘果を甘くし、二次、三次摘果で対応しましょう。

病害虫情報 （H26・No. 1） …… 神奈川県農業技術センター

Ⅲ　4月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名	病害虫名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
カンキツ	そうか病	少	並	1) 前年10月の発生は、平年より多かった。(＋) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	かいよう病（中晩柑類）	少	少	1) 県予察ほ(根府川)では、春先越冬病斑の発生が平年より少ない。(－) 2) 前年10月の発生は、平年よりやや少なかった。(－) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
ナシ	赤星病（感染時期）	－	遅	1) ビャクシン樹上における冬胞子堆の膨潤度は、3月24日で10.7であり平年より遅い。 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	黒星病	少	やや少	1) 前年10月の発生は平年より少なかったが、7～9月の発生は平年並であった。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
果樹全般	カメムシ類	－	多	1) 前年における、ヒノキ球果上のチャバネアオカメムシ新世代成虫の捕獲数は平年より多かった。(＋) 2) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は、平年より多い。(＋) 3) カンキツ枝の叩き出し調査におけるツヤアオカメムシ越冬成虫数は、平均より多い。(＋) 4) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
チャ	カンザワハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 3月の1～4半旬の積算降水量が平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…… 程度：甚＞多＞中＞少＞無　平年比：多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… (＋)：多発要因　(－)：少発要因

病害虫情報 （H26・No.1） …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(±)
	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 3月の1～4半旬の積算降水量が平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマは発生が平年より多かった。(＋) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、ミカンキイロアザミウマは寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
促成イチゴ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 3月の1～4半旬の積算降水量が平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	アザミウマ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…… 程度:甚＞多＞中＞少＞無　平年比:多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… (＋):多発要因　(－):少発要因

病害虫情報 （H26・No.1） …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ（横浜・藤沢地区）	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 3月の1～4半旬の積算降水量が平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	菌核病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)
春キャベツ（三浦半島地区）	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 3月の1～4半旬の積算降水量が平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	菌核病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(－)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より少ない予報。(＋)

※「発生量」…… 程度：甚＞多＞中＞少＞無　平年比：多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… (＋)：多発要因　(－)：少発要因

Ⅳ　4月の気象予報（気象庁 地球環境・海洋部3月25日発表3か月予報）

〈天　　気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	20%	40%	40%
降　水　量	40%	30%	30%
日照時間※	20%	40%	40%

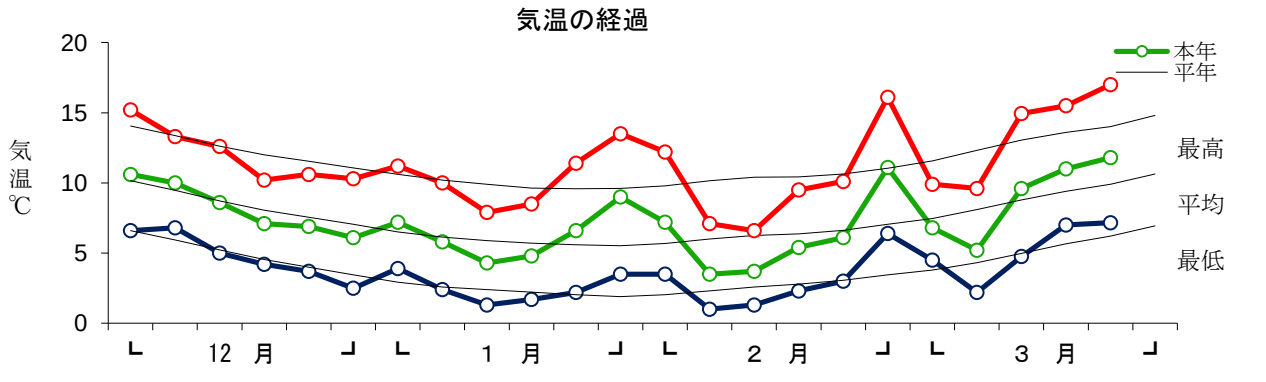
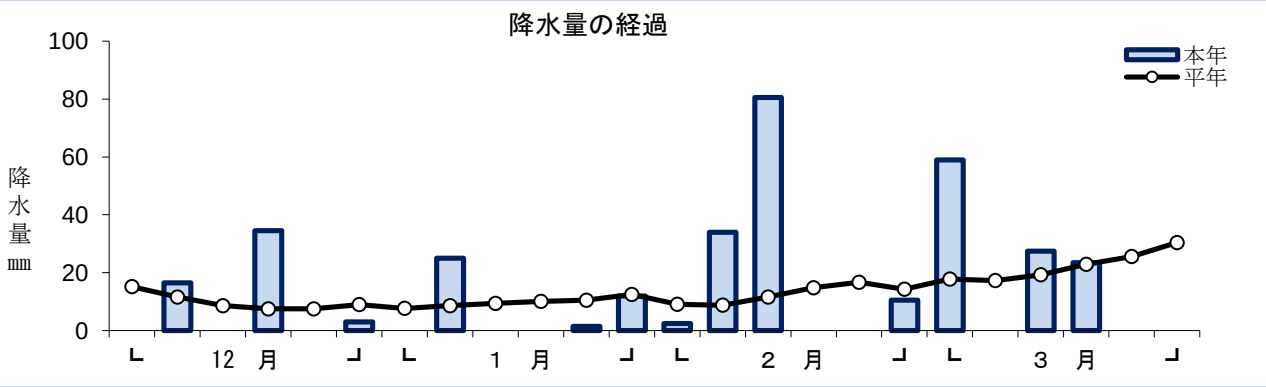
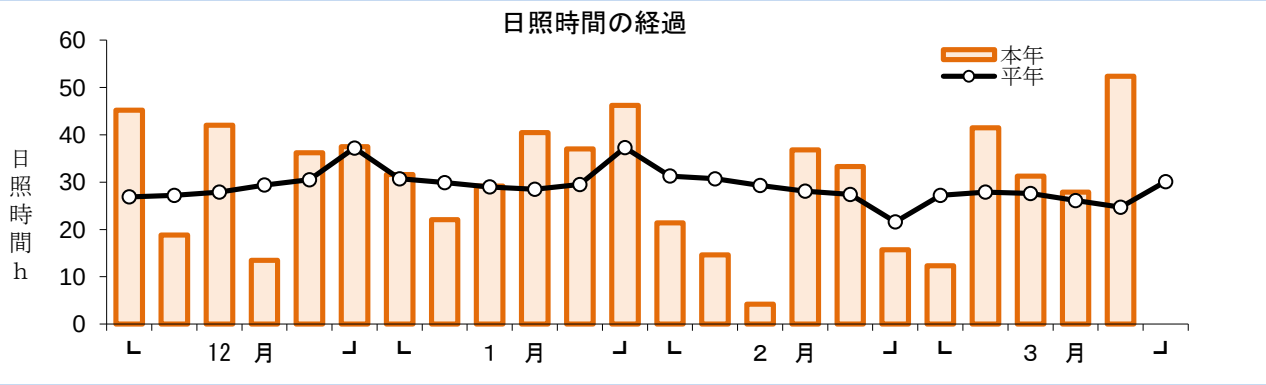
※ 3月20日発表1か月予報による

〈気象の経過〉［観測地　横浜地方気象台］

3月第5半旬まで

気温は、1～2半旬は平年より低く、3～5半旬は平年より高かった。

降水量は、1,3半旬は平年より多く、2,5半旬は平年より少なく、4半旬は平年並だった。

日照時間は、1半旬は平年より少なく、2,5半旬は平年より多く、3～4半旬は平年並だった。

＊春一番：3月18日、桜の開花日：3月25日（平年3月26日）